

「りゅうごう焼」のテント前で愛呼び込み高橋秀典さん
「いずれも福島相馬市の市民のひろば」



大会前日、会場設置を手伝う岡山からのボランティアたち



関西で働いていた。地元に戻っても特別な愛着はなかったが、震災後、県外から来てくれたボランティアに地域の魅力を紹介できます「これでは喜んでもらえない」と反省したという。

会場でテキパキと仕事をこなす瀬庭さんの表情は充実していた。「震災以降、若手が『やらなきゃ』と使命感を持ち、世代交代が進んだ。『元気でやってみよう』とアピールしない」。他の地域と交流でき県外からも人が訪れる復興グルメは、いつもより、知ってたらが楽しめば、人がなまにぎわいた。大変な人が訪れ、大変な来場者の目は温かく、「こんな楽しいイベントがあれば、仮設住宅に住んでいる人にも励みになる」と話す人もいた。一番多くの票を集めたのは、岡山県相馬市の「ズルン研つめれ汁」。表彰式も盛り上がり、大会は幕を閉じた。

岡山からのボランティアにも、充実感が漂った。実は、参加者のうち13人が中高生。4回目の参加という岡山目大村高3年、小椋健一君は「被災地に行くというより、知って人に会いに行くという感じ」。岡山操山中3年の古瀬友里さんは「私が伝えられる範囲は狭いけど、少しでも広がれば風評被害をなくしていけるかな」と真剣な表情だった。閉会からわずか1時間後、午後4時には岡山へ出発。心地よい疲労感に包まれ、バスに揺られた。

AMDAの次回「復興グルメ」は、来年予定されている。参加の問い合わせはAMDA (0866・2622・7)

復興グルメポ

にぎわいの先に、復興を願った。東日本大震災の被災3県から出店者が集う食のイベント「第8回復興グルメF1大会」は今年2日、福島県相馬市の「市民のひろば」で開会した。大会運営にかかわる医療NGO「AMDA」（北沢伊福町）と岡山から訪れたボランティア約40人も、出店者と一緒にお客の呼び込みを精を出した。

風評被害 吹き飛ばせ

東日本大震災

パンを添えた「牡蠣」ない豪華なメニューが確力キ入りのホワイト。そのうち、午前11時、い「シチュー」（宮城県石巻市）、イクラを乗せた魚介入り炊き込みご飯（福島県南相馬市）……。

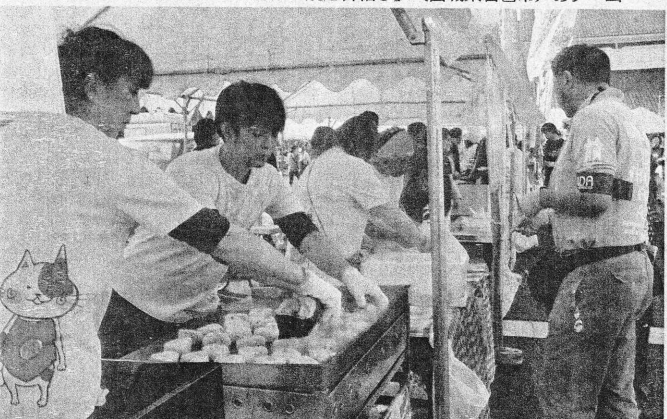
んが突然、訪ねてきた。福島県内の仮設商店街を飛び込みで回っているが、断られ続けているという。「熱心だし、面白そう」と高橋さんは軽い気持ちで引き受けた。

「大変なことになった」がプレッシャーを感じ始めるのに時間はかからなかった。岩手、宮城からの出店者は「やっ」と福島から来てくれた」と大喜び。「放射能に汚染され

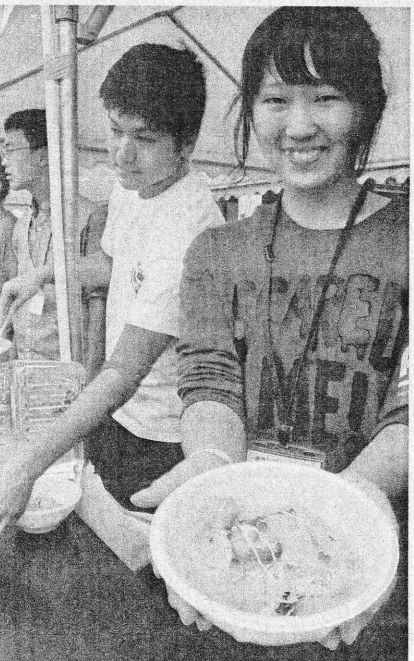
た食べ物を出すのか」と非難する書き込みもあつた。だが、迎えた本番で「りゅうごう焼」には長蛇の列ができて、準備物を飾った。「自信を取り戻せた」と高橋さんは話す。放射能測定で異常がなくとも福島の食べ物に敬遠され、若い店員は結婚するなら地元の人じゃないと受け入れてくれない」とこぼした。「みんな、福島の間人だ」とどうにも負い目



会場は約600人の来場者でにぎわった



来場者6500人 力合わせ客呼び込み



岩手県陸前高田市の「シャケとイクラのさけかすうどん」。各チームが工夫を凝らした料理を出品した